

Briefing Transcription

|| 2026 年 11 月期 第 2 四半期 決算説明文字起こし ||

AHCグループ株式会社

7083 東証グロース サービス業

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026 年 8 月 10 日 (月)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03

■ 決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）決算は、売上高が 3,466 百万円（前年同期比 +6.4%）、営業利益が 39 百万円（同 +75.9%）と増収増益。既存事業所・前期開設事業所の順調な推移、外食事業の食材外部販売の拡大が牽引した。予想比でも売上高はほぼ計画通り、営業利益は大幅に上振れとなっている（売上高の事前予想 3,465 百万円、営業利益の事前予想 11 百万円）。
- ・ 特筆事項として、外食関連事業では、センターネットワーク社の食材外部販売が好調で、売上高 284 百万円（前年同期比 +26.6%）、営業利益 27 百万円（同 +29.5%）と大幅な増収増益となっている。また、DX 推進では、福祉事業に絡む AI 支援記録アプリ「AI 支援さん」の導入事業所数が 60 事業所へと急拡大し、新機能実装や生成 AI 活用研修の提供により現場への定着が進んでいる。さらに、福祉事業所不足という社会課題に対応する新事業として「福祉不動産開発事業」を開始し、土地取得から建設・運営事業者選定・販売までを一貫して行うことで、社会的ニーズへの貢献、事業構造の多様化、資本効率の向上という 3 つの価値獲得が進む可能性がある点は、注目してみたい。
- ・ 通期業績予想は、売上高で 7,242 百万円（前期比 +8.7%）、営業利益で 175 百万円（前期比 +60.9%）が予想されている。業績が上振れているものの、新規事業所の開設時期の後ろ倒しを考慮し、予想を据え置いている。事業所は年間 8 拠点（福祉事業 6 拠点、介護事業 2 拠点）の開設が計画されている。
- ・ 介護や障がい者支援を手掛ける類似企業と比較した場合、コロナ禍による収益悪化の影響もあり、同社の収益性、成長性の数値に特段目立った数値はない。ただ、障がい者支援が成長軌道に乗りつつある現状において、類似企業と比較して規模感の小さい同社の成長性は今後、極めて大きくなることが想像に難くない。中期業績計画（2027 年 11 月期の売上高で 7,563 百万円、営業利益で 330 百万円）を達成した時点で、PER が少なくとも 15 倍の評価となった場合の時価総額は 30 億円程度が試算される（現在 22 億円）。成長スピードの加速が認識されると、それに応じた PER 評価となろう。
- ・ 6 月 12 日には、株主優待制度の導入も発表している。毎年 11 月末日を基準日とし、300 株以上を 1 年以上継続保有する株主が対象となる。配当利回り 1.17% と株主優待利回り 3.25% の合計は 4% を上回る。

■ 出演者

AHCグループ株式会社
代表取締役社長

荒木 喜貴様

■ 決算説明

2026年7月31日



2026年11月期 第2四半期 決算説明資料

AHCグループ株式会社
証券コード：7083



■ AHCグループ 荒木様

皆様、ご視聴ありがとうございます。

AHCグループ株式会社 代表取締役社長 荒木喜貴でございます。

2026年11月期第2四半期決算の内容について、ご説明いたします。

目次

2

1	2026年11月期 第2四半期実績	3P
2	2026年11月期 通期業績予想	14P
3	2026年11月期 主要取組事項	20P
4	補足資料（会社・事業概要）	31P



2026 AHC GROUP INC.

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

1.2026年11月期 第2四半期実績 | 連結決算概要（前年同期比） | 3

- 売上高は、既存事業所・前期開設事業所が順調に推移したことにより、208百万円増の3,466百万円となった
- 営業利益は、営業の改善効果などにより17百万円増の39百万円となった
- 経常利益は、支払利息の増加などにより12百万円増の51百万円となった

(単位：百万円)

	2025年11月期 第2四半期累計実績 (2024/12~2025/05)		2026年11月期 第2四半期累計実績 (2025/12~2026/05)		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	3,258	100.0%	3,466	100.0%	208	6.4%
売上原価	2,929	89.9%	3,098	89.4%	169	5.8%
売上総利益	328	10.1%	368	10.6%	39	12.1%
販売費及び一般管理費	306	9.4%	328	9.5%	22	7.4%
営業利益	22	0.7%	39	1.1%	17	75.9%
経常利益	38	1.2%	51	1.5%	12	33.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14	0.4%	21	0.6%	7	53.2%



2026 AHC GROUP INC.

はじめに連結決算概要についてご説明いたします。

前年同期との対比につきましては、既存事業所及び前期開設事業所の売上が順調に伸びたことにより、売上高は34億6千6百万円と、前年同期32億5千8百万円に対し、2億8百万円増加いたしました。

売上原価は30億9千8百万円と、前年同期29億2千9百万円に対し、1億6千9百万円増加、販売費及び一般管理費は3億2千8百万円と、前年同期3億6百万円に対し、2千2百万円増加いたしました。

これらを受けまして、営業利益は3千9百万円、経常利益は5千1百万円、四半期純利益は2千1百万円となりました。

1.2026年11月期 第2四半期実績 | 連結決算概要（予想比） | 4

- 売上高は、予想通り3,466百万円を確保した
- 営業利益は、福祉・外食が順調に推移したことにより予想を27百万円上回り39百万円となった
- 経常利益は、助成金の影響などにより予想を39百万円上回り51百万円となった

(単位：百万円)

	2026年11月期 第2四半期累計 予想 (2025/12~2026/05)		2026年11月期 第2四半期累計 実績 (2025/12~2026/05)		予想比 増減額	予想比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	3,465	100.0%	3,466	100.0%	0	0.0%
営業利益	11	0.3%	39	1.1%	27	242.8%
経常利益	12	0.4%	51	1.5%	39	316.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は四半期純損失	△3	△0.1%	21	0.6%	24	-



2026 AHC GROUP INC.

次に業績予想との対比についてご説明いたします。

売上高は介護事業では未達となったものの、福祉事業・外食事業で予想を上回り、全体では予想通りに推移いたしました。

営業利益は福祉事業・外食事業が順調に推移したことにより、予想に対し、プラス2千7百万円となりました。

経常利益は予想に対し、プラス3千9百万円となり、四半期純利益についても、予想に対し、プラス2千4百万円となりました。

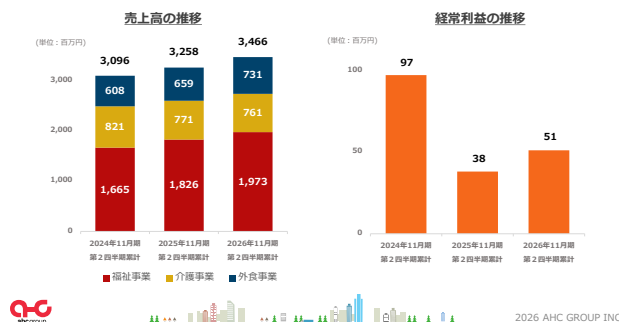
AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロス サービス業

決算説明

1.2026年11月期 第2四半期実績 | 連結業績推移(第2四半期累計) | 5

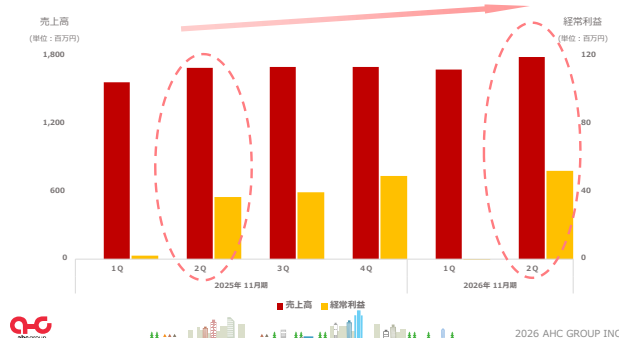
- 売上高については、福祉事業・外食事業(食材の外部販売)で大きく伸ばすことができた
- 経常利益についても、売上高の増加に応じて順調に推移した



連結業績推移につきましては、福祉事業・外食事業で大きく売上高を伸ばすことができました。
経常利益につきましても、売上高の増加に応じて順調な推移となりました。

1.2026年11月期 第2四半期実績 | 四半期推移 | 6

- 売上高、経常利益ともに前期と比較して増加で推移した



四半期推移としましては、前年同四半期との対比において、売上高、経常利益ともに順調に推移しております。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

1. 2026年11月期 第2四半期実績 売上原価・販売費及び一般管理費 7

- 売上原価は、前期開設事業所の立ち上げりにともなう人件費の増加及び食材の外部販売の原価の増加等により169百万円増加した(構成比: 0.5p減少)
- 販売費及び一般管理費は諸経費の増加等により22百万円増加した(構成比: 0.1p増加)

(単位: 百万円)

	2025年11月期 第2四半期累計実績 (2024/12~2025/05)		2026年11月期 第2四半期累計実績 (2025/12~2026/05)		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	3,258	100.0%	3,466	100.0%	208	6.4%
売上原価	2,929	89.9%	3,098	89.4%	169	5.8%
(人件費)	1,379	42.3%	1,435	41.4%	55	4.0%
(外食・外販原価)	373	11.5%	432	12.5%	59	15.9%
(地代家賃)	292	9.0%	298	8.6%	5	2.0%
(その他)	883	27.1%	931	26.9%	48	5.4%
販売費及び一般管理費	306	9.4%	328	9.5%	22	7.4%
(人件費)	49	1.5%	53	1.6%	4	9.8%
(のれん償却)	24	0.7%	20	0.6%	△4	△16.8%
(その他)	232	7.1%	254	7.3%	21	9.5%
営業利益	22	0.7%	39	1.1%	17	75.9%



2026 AHC GROUP INC.

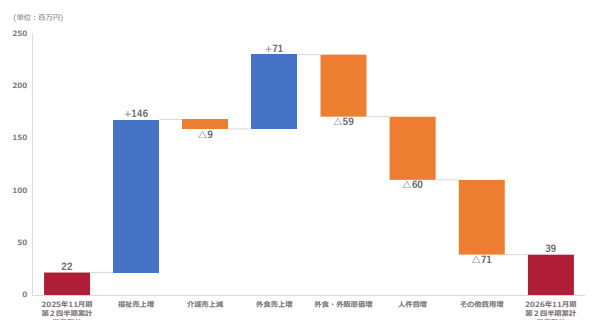
次に売上原価・販売費及び一般管理費についてご説明いたします。

売上原価は、食材の外部販売拡大による外販原価をはじめ、前期開設事業所の立ち上げりに伴う人件費などの増加により、前年同期と比べ1億6千9百万円増加いたしました。

一方、事業所のオペレーション改善などにより、構成比率は前年同期 89.9% から 89.4% と、0.5 ポイント減少いたしました。

販売費及び一般管理費は、諸経費の増加により、前年同期と比べ2千2百万円増加いたしました。

1. 2026年11月期 第2四半期実績 営業利益の増減要因 8



2026 AHC GROUP INC.

営業利益の増減要因はご覧の通りです。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

1.2026年11月期 第2四半期末実績 セグメント別 売上・利益 概要 9

- 福祉事業は既存事業所の稼働が向上したことに加え、前期開設事業所が順調に立ち上がり、売上高及び営業利益は前年同期比・予想比ともに上回った
- 介護事業は事業所閉鎖の影響により、前年同期比で売上高は減少したものの営業損失は改善した
- 外食事業は既存店舗が好調に推移したこと、食材の外部販売が増加したことにより売上高及び営業利益は前年同期比・予想比ともに上回った

(単位: 百万円)

	2025年11月期 第2四半期末実績 (2024/12~2025/05)	2026年11月期 第2四半期末計 予想 (2025/12~2026/05)	2026年11月期 第2四半期末計 実績 (2025/12~2026/05)	前年同期比 増減額	予想比 増減額
	金額	金額	金額		
福祉事業					
売上高	1,826	1,970	1,973	146	3
営業利益	104	94	119	14	24
介護事業					
売上高	771	767	761	△9	△6
営業利益	△24	△4	△19	4	△15
外食事業					
売上高	659	728	731	71	3
営業利益	44	31	49	4	17
調整額					
売上高	0	-	-	△0	-
営業利益	△102	△110	△109	△6	0
計					
売上高	3,258	3,465	3,466	208	0
営業利益	22	11	39	17	27

調整額: 各セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引消去



2026 AHC GROUP INC.

次にセグメント別 売上・利益の概要についてご説明いたします。

福祉事業では、既存事業所の稼働が向上したことに加え、前期開設した事業所が順調に立ち上がり、前年同期との対比では、売上高は1億4千6百万円増の19億7千3百万円、営業利益は1千4百万円増の1億1千9百万円となりました。

予想との対比では、売上原価、販売費及び一般管理費を抑制することができたため、売上高は3百万円増、営業利益は2千4百万円増となりました。

介護事業では、事業所を閉鎖したこと、事業所のオペレーションを改善したことなどにより、前年同期との対比では、売上高は9百万円減の7億6千1百万円、営業損失は4百万円改善いたしました。

予想との対比では、売上高、営業利益ともに予想を下回りました。

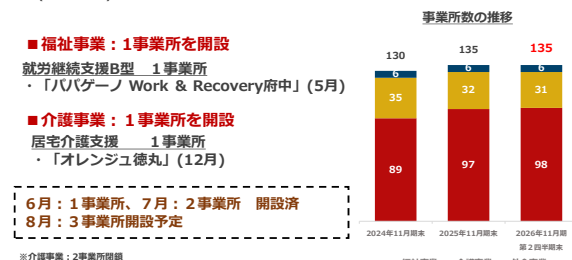
外食事業では、既存店舗が順調に推移したことに加え、食材の外部販売が増加したことにより、前年同期との対比で、売上高は7千1百万円増の7億3千1百万円、営業利益は4百万円増の4千9百万円となりました。

予想との対比では、売上高、営業利益ともに予想を上回りました。

1.2026年11月期 第2四半期末実績 事業所(拠点)の新規開設 10

2026年11月期 第2四半期末では2事業所を開設

当初計画(通期): 就労継続支援B型3、共同生活援助2(20居室)、児童発達支援1、居宅介護支援1、居酒屋1
実績(第2四半期末): 就労継続支援B型1、居宅介護支援1



2026 AHC GROUP INC.

次に事業所開設状況についてご説明いたします。

第2四半期末累計期間では、福祉事業及び介護事業で、就労継続支援B型を1事業所、居宅介護支援を1事業所開設いたしました。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

グループ全体では、福祉 98 事業所、介護 31 事業所、外食 6 店舗の合計 135 事業所となりました。
なお、7 月末までにすでに 3 事業所を開設しており、8 月にはさらに 3 事業所の開設を予定しております。

1.2026年11月期 第2四半期末実績 貸借対照表の増減要因 11

	2025年11月期 第2四半期末実績	2026年11月期 第2四半期末実績	前期比 増減額	
流動資産	3,685	3,510	△174	■ 流動資産の増減要因
固定資産	2,398	2,681	282	➢ 現金及び預金の減少(△264百万円)
(有形固定資産)	1,351	1,564	213	➢ 売掛金の増加(+61百万円)
(無形固定資産)	363	340	△22	■ 固定資産の増減要因
(投資その他の資産)	683	775	92	➢ 土地及び建物の増加(+216百万円)
総資産	6,083	6,191	108	■ 負債の増減要因
負債	4,904	5,020	115	➢ 賞与引当金の増加(+30百万円)
(流動負債)	1,467	1,646	179	➢ 買掛金の増加(+22百万円)
(固定負債)	3,436	3,373	△63	➢ 未払金の増加(+35百万円)
純資産	1,179	1,171	△7	■ 純資産の増減要因
				➢ 配当金の支払(△24百万円)
				➢ 自己株式の増加(△3百万円)
				➢ 四半期純利益(+21百万円)



2026 AHC GROUP INC.

次に貸借対照表の増減についてご説明いたします。

流動資産は、土地及び建物の取得による現預金の減少、売掛金の増加などにより、前期末より 1 億 7 千 4 百万円減少いたしました。

固定資産は、土地及び建物の取得などにより、前期末より 2 億 8 千 2 百万円増加いたしました。

負債につきましては、賞与引当金、買掛金、未払金が増加したことなどにより、前期末より 1 億 1 千 5 百万円増加いたしました。

純資産につきましては、四半期純利益及び自己株式の取得のほか、配当金の支払いにより、前期末より 7 百万円減少いたしました。

1.2026年11月期 第2四半期末実績 キャッシュ・フローの状況 12

	2025年11月期 第2四半期末実績	2026年11月期 第2四半期末実績
税金等調整前当期純利益	38	51
営業活動による C F	39	109
有形固定資産の取得による支出	△55	△330
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△87	-
投資活動による C F	△100	△342
長期借入れによる収入	400	430
長期借入金の返済による支出	△301	△425
自己株式の取得による支出	-	△11
配当金の支払額	△20	△23
財務活動による C F	76	△31
現金及び現金同等物の増減額	16	△264
現金及び現金同等物の期首残高	2,419	2,440
現金及び現金同等物の期末残高	2,435	2,175



2026 AHC GROUP INC.

キャッシュ・フローの状況はご覧の通りです。

AHCグループ | 2026 年 8 月 10 日 (月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

目次

13

1	2026年11月期 第2四半期実績	3P
2	2026年11月期 通期業績予想	14P
3	2026年11月期 主要取組事項	20P
4	補足資料（会社・事業概要）	31P



2026 AHC GROUP INC.

次に 2026 年 11 月期通期業績予想について、ご説明いたします。

2.2026年11月期 通期業績予想 連結業績予想

14

- 第2四半期の累計は予想を上回る結果となったものの、新規事業所の開設時期が後ろ倒しになった事等を鑑み、通期の業績予想は据え置きとした

(単位：百万円)

	2026年11月期 第2四半期累計実績 (2025/12~2026/05)	2026年11月期 予想 (2025/12~2026/11)	進捗率
	金額	金額	
売上高	3,466	7,242	47.9%
営業利益	39	175	22.5%
経常利益	51	165	31.2%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	21	92	23.2%



2026 AHC GROUP INC.

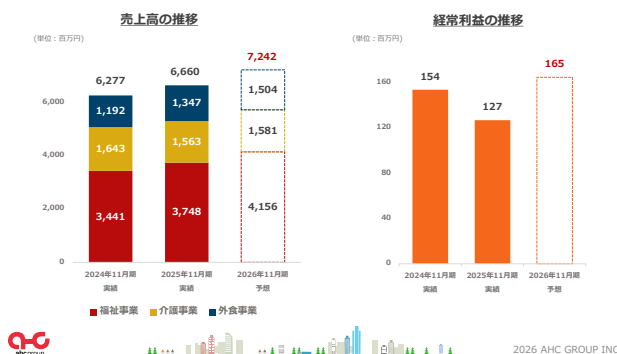
先ほどご説明した通り、第2四半期の累計実績は予想を上回る結果を残したものの、新規事業所の開設時期が後ろ倒しになったことなどを鑑みて、通期の業績予想は当初の予想を据え置き、売上高は72億4千2百万円、営業利益は1億7千5百万円、経常利益は1億6千5百万円、当期純利益は9千2百万円を想定しております。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロス サービス業

決算説明

2.2026年11月期 通期業績予想 | 連結業績予想(推移) | 15



連結業績予想の推移といたしましても、ご覧の通り、福祉事業・介護事業・外食事業ともに売上高は順調に推移し、過去最高売上高を更新するものと想定しております。
経常利益につきましても、同様に順調に推移するものと想定しております。

2.2026年11月期 通期業績予想 | セグメント別 売上・利益 予想 | 16

■ 各セグメント共に概ね予想通りの売上・利益になるものと想定

(単位: 百万円)

	2026年11月期 第2四半期累計実績 (2025/12~2026/05)		2026年11月期 予想 (2025/12~2026/11)		進捗率
	金額		金額		
福祉事業	売上高	1,973	4,156	47.5%	
	営業利益	119	299	39.9%	
介護事業	売上高	761	1,581	48.1%	
	営業利益	△19	27	—	
外食事業	売上高	731	1,504	48.6%	
	営業利益	49	65	75.5%	
調整額	売上高	—	—	—	
	営業利益	△109	△216	—	
計	売上高	3,466	7,242	47.9%	
	営業利益	39	175	22.5%	

調整額: 各セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引消去

次に、セグメント別売上・利益予想についてご説明いたします。

福祉事業は、既存事業所及び前期開設事業所が順調に推移し、新規事業所についても予定通りの数を開設できるものと想定しております。

介護事業は、予想通りに推移するものと想定しております。

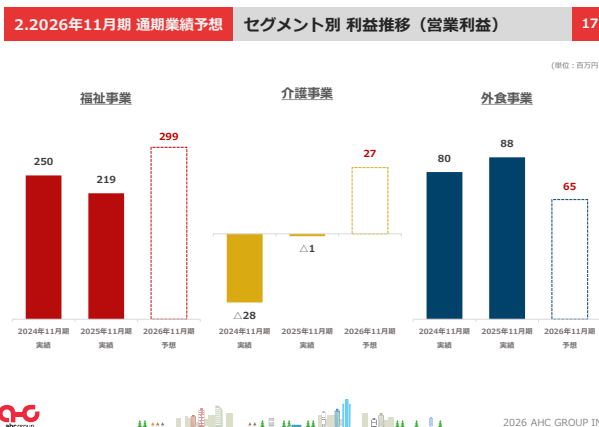
外食事業は、食材の外部販売が順調に増加するものと想定しております。

これらを踏まえ、福祉事業の売上高は41億5千6百万円、営業利益は2億9千9百万円、介護事業の売上高は15億8千1百万円、営業利益は2千7百万円、外食事業の売上高は15億4百万円、営業利益は6千5百万円を想定しております。

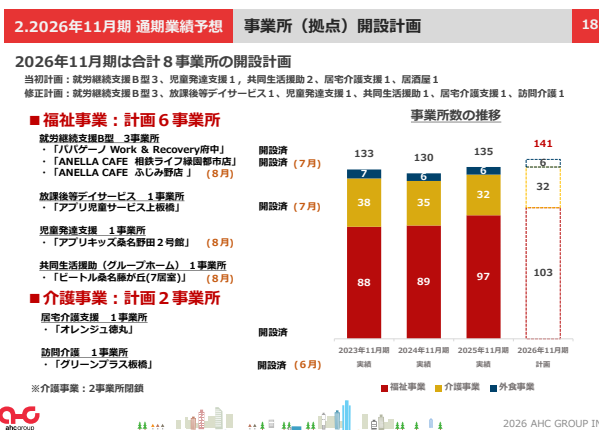
AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明



セグメント別の営業利益推移はご覧の通りです。



続きまして、下期の事業所開設計画についてご説明いたします。

ご覧の通り、下期は6事業所の開設を計画しております。

うち、7月までに福祉事業で2事業所、介護事業で1事業所の開設を行いました。

さらに、8月には福祉事業で3事業所の開設を予定しております。

当初の予定とは異なるものの、状況に合わせた最適な開設を進めてまいります。

AHCグループ | 2026 年 8 月 10 日 (月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

目次		19
1	2026年11月期 第2四半期実績	3P
2	2026年11月期 通期業績予想	14P
3	2026年11月期 主要取組事項	20P
4	補足資料（会社・事業概要）	31P



2026 AHC GROUP INC.

続きまして、2026 年 11 月期の主要取組事項の進捗についてご説明いたします。

3.主要取組事項	3つの主要取組事項	20
持続的成長を支える3つの柱		
主要取組事項① 人材の採用・教育	・多様な人材の採用強化 ・階層別の教育強化	
主要取組事項② 事業の拡大	・事業所の新規開設 ・外食関連事業の拡大	
主要取組事項③ DXの推進	・「A I 支援さん」の導入拡大 ・全社データ統合基盤の構築	



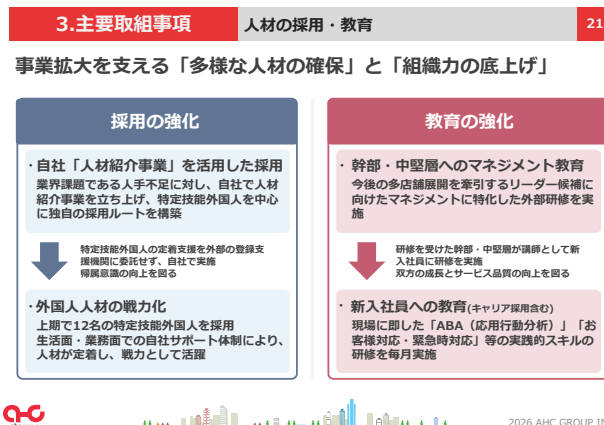
2026 AHC GROUP INC.

当社は、持続的な企業価値の向上に向けて、人材の採用・教育、事業の拡大、DX の推進の3つの柱を掲げております。

AHCグループ | 2026 年 8 月 10 日 (月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明



1つ目は、事業拡大において最も重要な要素の一つである人材の採用・教育です。

採用の強化につきましては、業界全体が人手不足である中、自社の人材紹介事業を活用し、特定技能外国人を12名採用いたしました。

これら外国人人材の生活面・業務面のサポートを自社で行い、定着しやすい環境を整えており、すでに現場の重要な戦力として活躍しております。

教育の強化につきましては、新たな研修体制の導入を進めております。

具体的には、部課長などの中間層を対象にマネジメント研修を定期的を実施し、それらを現場に持ち帰り、再現していくという取り組みです。

毎月実施される研修の中でテーマを見つけ、それを各事業所の組織の中で共有し、業務上の課題として討議し、解決策を導き出します。

これらを繰り返すことで、部課長を含む現場の従業員全体が問題意識を高く持ち、相互への理解を深め、改善策を話し合い、自ら解決していく風土を醸成しております。

個々の従業員の人間力の向上が企業全体の価値の向上に資するものとして、今後も継続的に取り組みを進めてまいります。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

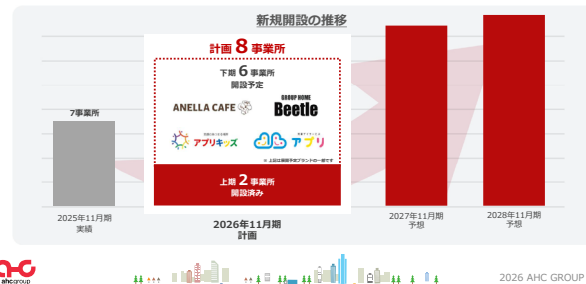
3.主要取組事項

事業の拡大

22

事業所の新規開設を継続して加速

- 通期の出店計画の達成に向け、着実に開設を実行し順調に立ち上げ
- 下期も需要の高い「就労継続支援B型」「放課後等デイサービス」「共同生活援助」等計画どおりに開設を推進



2つ目は、事業の拡大です。

今期はこれまでに、就労継続支援 B 型事業所を 1 事業所、居宅介護支援を 1 事業所開設いたしました。当初計画しておりました残り 6 事業所の開設につきましては、今後、8 月末までの間に完了いたします。さらに、次年度に開設を計画しております事業所につきましても開発を進めており、そのうちいくつかはすでに契約を完了しております。

また、開発数の拡大や管理業務の増加に伴い、体制の強化も進めてまいりました。

今後につきましても、さらなるグループの成長・拡大を目指し、継続的・計画的な開発を進めてまいります。

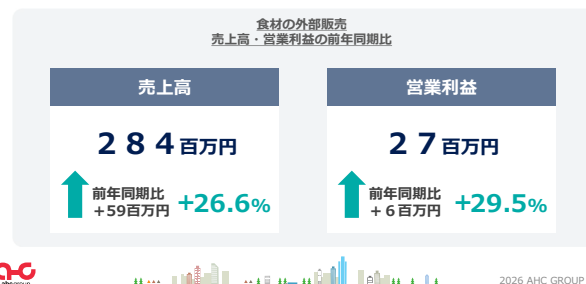
3.主要取組事項

事業の拡大

23

外食関連事業の拡大

- センターネットワーク社の取り組む、食材の外部販売を拡大
- 売上高の好調な伸びにより、増収増益での推移を想定



続いて、外食関連事業の拡大についてご説明いたします。

グループ会社であるセンターネットワーク社では、食材の外部販売が大きく拡大しております。

第2四半期累計の売上高は、前年同期比 26.6% 増と好調に推移いたしました。

この事業は、規模の大小に関わらず、顧客の需要に応じて少量多品目を取り扱い、数多くの飲食店の総合的なバックアップを行うことで支持を得ております。

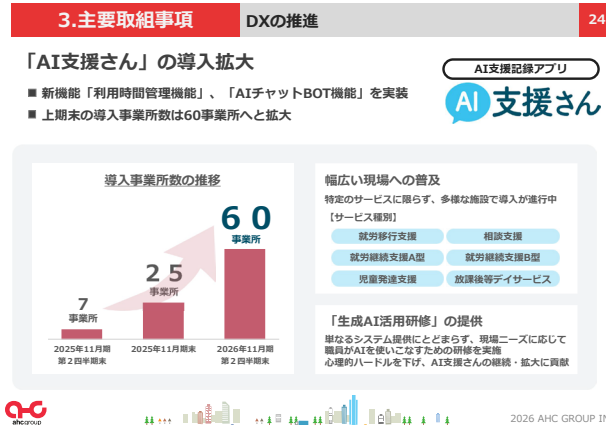
さらに、自社倉庫を保有せず、きめ細やかな物流網を構築することで、日本全国の顧客を対象とすることができるのも大きな特徴です。

今後も、総合的なバックアップを提供する物流プラットフォームとして事業を拡大してまいります。

AHCグループ 2026年8月10日(月)

7083 東証グロース サービス業

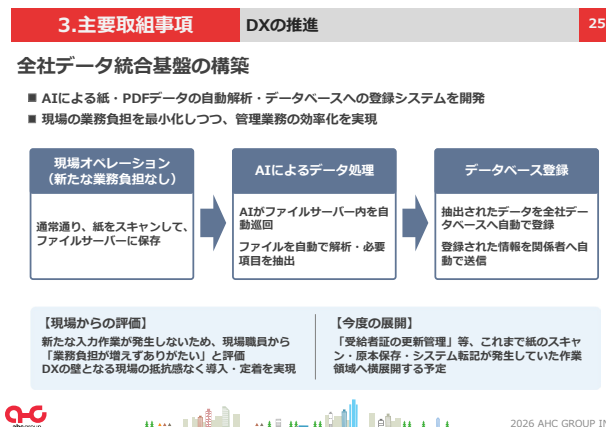
決算説明



主要取組事項の3つ目は、DXの推進です。

AI支援記録アプリ「AI支援さん」の導入については、第2四半期末の時点で60事業所となりました。機能としては、現場からのニーズが多かった利用時間管理機能とAIチャットBOT機能を追加いたしました。この結果、就労継続支援A型や放課後等デイサービス、児童発達支援などの事業所への導入が進みました。さらに、生成AI活用研修などを実施し、現場の職員がAIを使い、身近に感じられる取り組みなども進めております。

今後も、現場に寄り添い、現場に即した開発を進め、「AI支援さん」の導入拡大を進めてまいります。



DX推進のもう1つの柱、全社データ統合基盤の構築につきましては、統合データベースへのデータ取り込みがスタートいたしました。

これまでDX推進の壁となっていた現場職員の二重の情報入力作業を省き、AIを使用してデータベースに登録できるシステムを開発いたしました。

これにより、一部の現場では、職員に負担をかけずに、現場責任者、マネージャー、本社管理部門との間での情報共有、管理業務の効率化を実現しております。

今後は、このシステムを社内で横展開するとともに、対象とする業務の範囲も拡大し、さらなる効率化を進めてまいります。

AHCグループ | 2026 年 8 月 10 日 (月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

TOPICS		福祉不動産開発事業	26
「福祉不動産開発事業」の開始 福祉事業所の圧倒的な不足という深刻な社会課題に対し、当社が培った「福祉ノウハウ」を活かし、福祉不動産の開発（土地取得および建物の建設）・運営事業者の選定・売却までを一貫して行う新事業を開始			
当事業がもたらす3つの価値			
① 社会的ニーズへの貢献	自社の事業所開設でも直面した「福祉用物件確保の困難性」に直接アプローチ、地域福祉インフラの持続的な拡充に寄与 また社会課題を解決するESG投資に貢献		
② 事業構造の多様化	既存事業に加え、新たに資本集約型の事業を併走することで 多角的な収益ポートフォリオ・事業基盤を強固に構築		
③ 資本効率の向上	実需に裏付けされた、確実性のある不動産開発事業へ積極的に投資 不動産ソリューションによるアセットライト経営の推進		



2026 AHC GROUP INC.

続きまして、新規事業の開始についてご説明いたします。

当社グループは、これまで、障害福祉事業の運営を中心に、地域社会に根ざした質の高い福祉サービスの提供に努めてまいりました。

現在、全国に 98 事業所、うち障害者向けグループホームにおいては 38 拠点 305 居室を展開するに至っており、豊富な運営実績とノウハウを蓄積しております。

現在、福祉業界においては、サービスを必要とされている方々に対して、事業所の不足が課題となっております。その要因の一つとして、事業所の開設・運営に必要な基準を満たす物件が極めて少ないこと、すなわち福祉用物件の確保の困難性という社会課題が存在します。

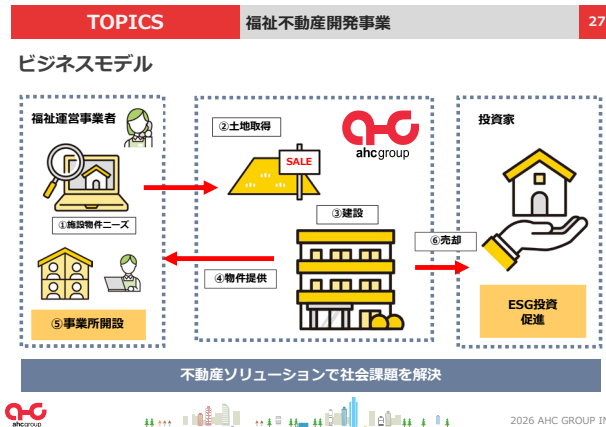
このような状況を踏まえ、当社グループは、これまでに培ってきた福祉事業運営実績及び現場のニーズをベースとしたノウハウを最大限に活かし、福祉事業に最適な土地・建物の開発から販売までを一貫して行う福祉不動産開発事業を開始することといたしました。

本事業の推進により、良質な福祉インフラの早期拡充の支援、ESG 投資機会の創出を通じて社会的責任を果たすとともに、労働集約型である既存の福祉サービス運営事業に加えて、資本集約型である不動産開発事業を並走させ、多角的な収益ポートフォリオを構築いたします。

また、これにより、収益基盤の多様化と資本効率の向上を同時に実現し、持続的な企業価値の向上及び株式価値の最大化を目指してまいります。

AHCグループ | 2026年8月10日(月)
7083 東証グロース サービス業

決算説明



次に、当事業の概要についてご説明いたします。

まずは、当社のノウハウ及びネットワークを活かし、障害者向けグループホームを要望する運営事業者を選定し、協議します。

次に、その事業者のニーズのあるエリアで土地を探索し、取得し、その後、事業所に適した建物を建設します。最後に、運営事業者が運営を開始し、地域福祉の発展に共鳴し、共に支えてくださる投資家の皆様への販売を行います。



続きまして、新たに導入いたしました株主優待制度についてご説明いたします。

当社は、株主の皆様の平素からの温かいご支援に心より感謝申し上げるとともに、当社株式への投資魅力をさらに高め、より多くの皆様に中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入いたしました。毎年11月末日を基準日として、当社株式を300株以上かつ1年以上継続して保有されている株主様を対象に、年1回1万円分のデジタルギフトを贈呈いたします。

当社は、引き続き、持続的な企業価値の向上に努めるとともに、こうした優待制度や配当を含めた株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、積極的に取り組んでまいります。

AHCグループ | 2026 年 8 月 10 日 (月)

7083 東証グロース サービス業

決算説明

TOPICS	食べログ ホットレストラン受賞	29
■「ねぎま 三ぞう 池袋西口店」が東京エリアで「食べログ ホットレストラン」アワードを2年連続受賞 ※年間の食べログネット予約数が上位に入る店舗を発表するアワード		
		
		

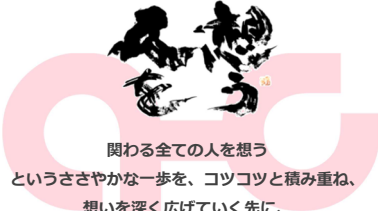
最後に嬉しいお知らせです。

昨年に引き続き、今年も「ねぎま三ぞう 池袋西口店」が食べログ ホットレストラン 2026 アワードを受賞いたしました。

この賞は、食べログのネット予約を通じて多くのユーザーから選ばれ、注目される飲食店に授与されるもので、純粋な人気と信頼の実績を評価されたものです。

飲食店にとっては大変名誉な賞と感じております。

今後も引き続き受賞できるよう、日々努力を続けてまいります。

4.補足資料	企業理念	43
		
関わる全ての人を想う というささやかな一歩を、コツコツと積み重ね、 想いを深く広げていく先に、 希望にあふれる未来を創造します		
		

以上、2026 年 11 月期第 2 四半期 決算説明といたします。

ご視聴いただき、ありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp